



新 放課後子ども総合プラン
取組のための市町村事例集



平成31年3月

福島県こども未来局子育て支援課
福島県教育庁社会教育課

目次



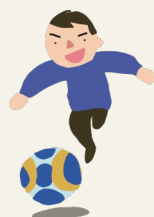
I 新・放課後子ども総合プランについて

1	はじめに	01
2	「新・放課後子ども総合プラン」(国プラン)	01
3	「ふくしま新生子ども夢プラン」(県プラン)	02
4	放課後児童クラブと放課後子ども教室の違い	03
5	連携に向けた支援及び課題	04



II 取組事例について

1	児童館を拠点として、児童クラブ・子ども教室のスタッフが一緒になって学習支援等を行う事例 場所の工夫 人材確保の工夫 (中島村)	05
2	学校の体育館での体験活動を中心とした活動の事例 場所の工夫 (棚倉町)	13
3	週末に小学校の体育館等で体験活動を中心に実施している事例 場所の工夫 (国見町)	17
4	大学生を活動指導員に委嘱し、体を動かす活動を中心に実施している事例 人材確保の工夫 (川俣町)	18
5	児童生活センターが児童クラブと子ども教室を所管し、町内の全小学校区で子ども教室をほぼ毎日開設している事例 自治体の理解 (三春町)	19
6	児童の活動内容を発表する場を設け、児童が能動的に活動に参加している事例 活動内容の工夫 (会津若松市)	20
7	児童クラブと子ども教室のスタッフが定期的に話し合い、児童の状況を情報交換している事例 情報共有 (南相馬市)	21



I 新・放課後子ども総合プランについて

1 はじめに

福島県では、放課後等において子どもが安全・安心に過ごしなが、多様な体験を行う「放課後児童クラブ」と「放課後子ども教室」を一体的・連携して実施する「新・放課後子ども総合プラン」を推進しています。

この事例集は、一体的・連携して実施している市町村の取組事例を紹介し、その他の地域で活用していただくために作成しました。

※放課後児童クラブとは

保護者が仕事などで昼間家にいない家庭の小学生に対し、放課後に遊びや生活の場を提供するものです。

※放課後子ども教室とは

全ての小学生を対象に、地域の方々の参画を得て、学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等の機会を提供するものです。

2 「新・放課後子ども総合プラン」(国プラン)

文部科学省及び厚生労働省が共同して策定した「新・放課後子ども総合プラン」は、共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めています。

※小1の壁

保育所に比べて放課後児童クラブが不足していることや、開所時間が短いことにより、小学校に上が際に親が働き方を変えざるを得なくなってしまう問題

「新・放課後子ども総合プラン」(2019~2023年)

(平成30年9月14日文部科学省生涯学習政策局長、厚生労働省子ども家庭局長ほか連名通知)

2 国全体の目標(要約抜粋)

- 放課後児童クラブについて、2021年度末までに約25万人分を整備し2023年度末までの5年間で約30万人分の整備を図る。
- 全ての小学校区で両事業を一体的に又は連携して実施し、うち小学校内で一体型として1万箇所以上で実施することを目指す。
- 新たに開設する放課後児童クラブの約80%を小学校内で実施することを目指す。

※「一体型」とは

放課後児童クラブと放課後子ども教室の活動場所を同一の小学校内等で実施しており、放課後子ども教室が実施する共通のプログラムに放課後児童クラブの児童が参加できるものをいう。

※「連携型」とは

放課後児童クラブと放課後子ども教室の活動場所の少なくとも一方が小学校内等以外の場所にあつて、放課後子ども教室が実施する共通のプログラムに、放課後児童クラブの児童が参加するものをいう。

3 「ふくしま新生子ども夢プラン」(県プラン)

県では、平成27年3月に策定した「ふくしま新生子ども夢プラン」において、基本的施策及び行動計画を以下のとおりとしています。このプランに基づき、県では各種研修会や推進委員会を開催しています。

(1) 研修会の開催

放課後児童支援員認定資格研修 (こども未来局子育て支援課)

放課後児童クラブに従事する放課後児童支援員として必要な知識・技能を習得するための研修会を開催しています。

放課後児童支援員資質向上研修 (こども未来局子育て支援課)

放課後児童支援員の資質向上を図るため、経験年数やスキルに応じた研修会を開催しています。

また、平成31年度から子ども教室への参画者も対象にした研修にします。

放課後子ども教室の研修(教育庁社会教育課)

放課後子ども教室の参画者と放課後児童クラブの職員の資質向上及び情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催しています。

(2) 推進委員会の開催

放課後子ども総合プラン推進委員会 (教育庁社会教育課、こども未来局子育て支援課)

放課後対策の総合的なあり方について検討するため、学識経験者、市町村行政関係者、学校関係者、社会教育関係者、放課後児童クラブ関係者、放課後子ども教室関係者などを構成員とした推進委員会を開催しています。



「ふくしま新生子ども夢プラン」(平成27年3月策定 平成29年1月改訂)より抜粋

第4章 基本的施策及び行動計画 ～IV 子どもにやさしい環境づくり～

(6) 子育て支援の拠点や子どもの居場所づくり

- 共働き家庭等の「小1の壁」を打破するとともに、多様な体験・活動ができるように、放課後児童クラブと放課後子ども教室の一体的な、又は連携による実施を推進します。
- 放課後児童支援員として必要な知識・技能を補完するための認定資格研修について、福島県の地域性に応じて方部別に実施するとともに、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室に従事する者の資質向上に努めます。
- 県・市町村のほか、学校・社会教育・放課後児童クラブの関係者、学識経験者等から構成する放課後子ども総合プランの推進委員会の定期的な開催や、放課後児童クラブ及び放課後子ども教室に係る情報の共有化などにより、行政における福祉部局と教育委員会の連携を強化して、放課後等の子どもたちの居場所づくりを推進します。

4 放課後児童クラブと放課後子ども教室の違い

	放課後児童クラブ	放課後子ども教室
対象児童	仕事などで保護者が家にいない家庭の小学生	全ての小学生
実施主体	市町村、社会福祉法人、保護者会、運営委員会など	県、市町村
実施場所	学校の余裕教室、学校敷地内の専用施設、児童館、民間施設など	学校の余裕教室、体育館、児童館など
従事者・参画者	放課後児童支援員、補助員	教育活動支援員、教育活動サポーター、地域コーディネーター、安全管理員、ボランティアなど
県内の設置状況 (平成30年度)	クラブ数 444か所 登録児童数 21,066人 (中核市含む)	教室数 129か所 (中核市除く)

一体型で実施 17か所
連携型で実施 23か所



5 連携に向けた支援及び課題

課題

文部科学省と厚生労働省が、全国の都道府県・市町村に対し実施した調査の結果(平成29年1月23日「放課後子ども総合プラン」の推進状況等について)によると、市町村における課題としては主に以下のものが挙げられています。

市町村における課題

- 両事業(放課後児童クラブ、放課後子供教室)を一体的に実施する人材の確保が困難である(62.1%)。
- 両事業を一体的に実施するための余裕教室等がない(47.0%)。
- 両事業を一体的に実施するための施設・設備等が十分でないなどにより、余裕教室等を利用することが困難(37.7%)。
- 自治体内において「放課後子ども総合プラン」への理解、実施に向けた調整に時間を要する(29.3%)。

(複数回答可)

国・県の支援

(1)運営費の補助等

子ども・子育て支援交付金(放課後児童健全育成事業)

放課後児童クラブの実施主体である市町村に対し、人件費や備品購入費用など運営にかかる費用の補助を行っています。

被災者支援総合交付金

(仮設住宅の再編に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業、放課後子ども教室委託事業)

放課後子ども教室の運営を市町村に委託しています。

(2)整備費への補助

子ども・子育て支援整備交付金

市町村や社会福祉法人などが放課後児童クラブを整備する場合、国・県で整備費の補助を行っており、学校敷地内等に整備する場合は、補助率を高くしています。

子ども・子育て支援交付金

放課後児童クラブと放課後子ども教室を一体的に行う場合に必要な設備の整備、修繕及び備品の購入に対し、市町村へその費用の補助を行っています。

(3)連携した取組のモデル事業

子どもたちの放課後活動を充実させるため、モデル事業として放課後児童クラブと放課後子ども教室との共通の活動を実施しました。

モデル事業名

ふくしま放課後いきいき活動支援事業(H28～30)

モデル事業実施市町村名

- 棚倉町(H28～29) ● 中島村(H29～30)

連携に向けた課題解消の参考となるよう市町村の取組事例を紹介します。

II 取組事例について

1 児童館を拠点として、児童クラブ・子ども教室のスタッフが 一緒になって学習支援等を行う事例 **場所の工夫** **人材確保の工夫** (中島村)

1 地域の現状

中島村は、東西約3km、南北約7kmにわたり、面積は18.92Km²で、福島県で2番目に小さい村である。人口は5,182人(平成29年4月現在)で、年々微減で推移している。人口のほとんどが県道棚倉矢吹線と県道泉崎石川線沿いに集中し、集落を形成している。

小学生を取り巻く家庭状況

小学生の児童数は平成26年度で297名、平成29年度で284名と年々減少傾向ではあるが、共働き家庭が多く88.7%の家庭が要保育家庭である。多世代家庭が49.7%で核家族世代は48.7%と拮抗しているが、祖父母の就労や介護、高齢のためなどで、放課後児童クラブを利用する家庭は年々増えている。

保育所・幼稚園の無償化に伴い働く保護者も増えており、また、他市町村からの移住も少しずつあり、未就学児の要保育家庭も増えている。また、小学校の就学をきっかけに働く保護者も多くみられ、今後も放課後児童クラブ利用児童は増加傾向にある。

2 放課後子ども教室、放課後児童クラブの状況

	放課後子ども教室 (中島子ども教室)	放課後児童クラブ (なかじま放課後児童クラブ)
登録児童数	27人	109人
活動場所	中島村児童館 輝らキッズ	中島村児童館 輝らキッズ
活動時間	金曜日 16:00~17:00 土曜日 9:30~11:30 長期休暇 9:30~11:30	平日 放課後~18:30 土曜日 7:30~18:30 長期休暇 7:30~18:30
開所頻度	金曜日 30日 土曜日 35日 長期休暇 5日 年間 約70日	平日 毎週月~金曜日 土曜日 毎週開所 長期休暇 夏季・冬季 休業・年度始め・年度 末休業日開所 年間 約292日 ※日祝日及び年末年始 期間は閉所
主に従事している者	コーディネーター 1人 子ども教育スタッフ 21人	児童厚生員 2人 放課後児童支援員 4人 補助員 2人
担当部署	児童館	児童館

3 共通活動の実施状況

(1)活動状況

主な活動場所	中島村児童館 輝らキッズ 中島村生涯学習センター 輝ら里
活動時間 (自由活動日)	金曜日 16:00~17:00 土曜日 9:30~11:30
活動頻度	毎週金曜日、土曜日、長期休業等
主に従事している者	児童館職員、放課後児童支援員、補助員、コーディネーター、安全管理員、活動指導員、生涯学習指導員
主な活動内容	金曜日：宿題を中心とした学習支援 土曜日：プログラム体験型活動や自由活動など

(2)活動日の1日の流れ(児童)

金曜日 学習支援		
時刻	中島子ども教室	なかじま放課後児童クラブ
15:00	授業終了(放課後) 学校から一度帰宅 家族の送りにより児童館 に登所	放課後、バスに乗って 児童館へ移動 登所後、出席確認、お やつ
15:50	学習会の準備	
16:00	学習会開始 滑津小1・2年生 …… クラブ室1 吉子川小1・2年生 …… クラブ室2 3年生以上 …… 学習室	
17:00	学習会終了・解散 家族の迎え (閉所)	学習会終了後、児童ク ラブ室へ戻り自由活動 家族の迎え
18:30	全員帰宅後、閉所	

三 金曜日の活動時に留意していること(事務担当者の声) 三

- 学習会では、始まりと終わりの挨拶をしっかり行い、気持ちの切り替えができるようにしている。
- 学習の振り返りカードを準備して毎回記入させ、学習会が有意義な時間になるように工夫している。
- 上学年になると小学校によって下校時間が異なる日があるため、滑津小学校と吉子川小学校が一緒に学習支援を始められない日がある。



土曜日 自由活動日

時刻	中島子ども教室	なかじま放課後児童クラブ
7:30		(開所) 児童館に登所 静かな遊びで過ごす
9:00		自由活動開始
9:30	保護者の送りにより児童館に登所 参加人数の確認 児童クラブ室へ移動	子ども教室の児童が児童クラブ室に来所してから、共同の遊びを始める
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 自由活動(子ども同士で自由に遊びを決めて活動する) ※友達と遊ぶ児童もいれば、1人で遊びをする児童もいる。 ※遊びによって、安全管理員や放課後児童支援員は、館内・館外に移動して、児童の安全を見守る。 </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 月1回、図書室での「おはなし会」に参加 (11:00～11:30) </div>	
11:30	活動終了。家族のお迎え 全員帰宅後、閉所	活動終了
12:00		昼食→休憩→自由活動→
13:00		おやつ→自由活動
18:30		全員帰宅後、閉所

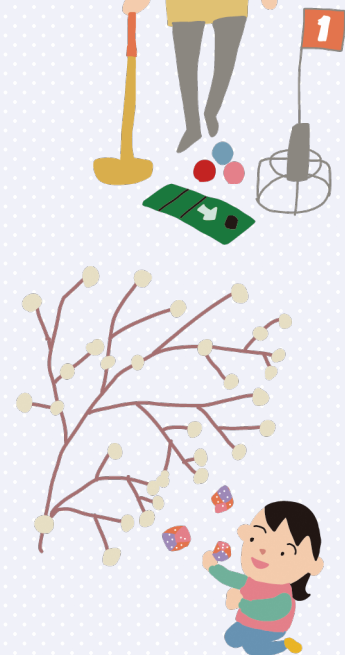
三 土曜日の活動時に留意していること(事務担当者の声) 三

- 前日までに放課後児童クラブと放課後子ども教室の利用児童と人数を把握して、指導者の共通理解を図る。
- 児童の思いを尊重し主体的に遊べるように配慮するとともに、遊びが発展するよう環境を整え、安全第一を心がけながら思う存分遊べるようにしている。



(3) 活動の1年の流れ(児童) (平成29年度)

月	日付	場所	体験活動名	備考
5月	26日(金)	輝らキッズ		学習支援型
	2日・9日・16日 23日・30日(金)	輝らキッズ		学習支援型
6月	3日(土)	村内屋内 ゲートボール場	①グラウンドゴルフ体験(スポーツ)	体験活動型
	17日(土)	コミュニティ福島 あぶくま洞	②研修旅行(環境学習・自然体験)	体験活動型
	1日(土)	輝らキッズ	③よさこいダンス教室(スポーツ)	体験活動型
7月	7日・14日(金)	輝らキッズ		学習支援型
	21日(金)24日(月)	輝らキッズ	子ども教室夏休み学習会	学習支援型
9月	1日・8日・15日 22日・29日(金)	輝らキッズ		学習支援型
	2日(土)	輝らキッズ	④絵手紙教室	体験活動型
10月	6日・13日・20日 27日(金)	輝らキッズ		学習支援型
	21日(土)	まほろん	子ども教室文化財体験教室	体験活動型
	4日(土)	輝らキッズ	⑤科学・工作教室	体験活動型
11月	10日・17日(金)	輝らキッズ		学習支援型
	24日(金)25日(土)	輝らキッズ	⑥アクアマリン福島移動水族館 (自然体験)	体験活動型
	1日・8日・15日(金)	輝らキッズ		学習支援型
12月	2日(土)	生涯学習センター 輝ら里 調理室	⑦親子料理教室(食育)	体験活動型
	25日(月)26日(火)	輝らキッズ	子ども教室冬休み学習会	学習支援型
	12日・19日・26日(金)	輝らキッズ		学習支援型
1月	13日(土)	生涯学習センター 輝ら里 和室	⑧世代間交流I 団子さし(伝統的文化継承・交流)	体験活動型
2月	2日・9日・16日 23日(金)	輝らキッズ		学習支援型
	17日(土)	生涯学習センター 輝ら里	⑨世代間交流II 昔遊び(伝統的文化継承・交流)	体験活動型
3月	2日・9日(金)	輝らキッズ		学習支援型



共通の活動回数

学習支援型：35回
 体験活動型：10回
 自由活動型実施回数：23回

(4) 1年の流れ(事務担当) (平成29年度)

※運営委員会はプログラム作成委員会を兼ねる

9月27日(水) 中島村児童館 輝らキッズ運営委員会

<主な内容>

- 年間プログラム計画内容の報告
- プログラム実施方法の確認
- 実施済みプログラムの報告

1月12日(金) 中島村児童館 輝らキッズ運営委員会

<主な内容>

- 実施したプログラムの課題と修正
- 次年度の年間行動計画とプログラムの検討
- 金曜日の学習会見学

3月9日(金) 中島村児童館 輝らキッズ運営委員会

<主な内容>

- 平成29年度実施プログラム振り返り
- 平成30年度実施プログラムの検討と準備

≡ 1年を通じて留意していること(事務担当の声) ≡

- 共通活動のプログラム作成に当たっては、村主催事業、村内の活動事業、各小学校の行事等を把握し、児童の参加体制が整うように考慮して関係機関との連携を大事にしながら年間計画の日程・内容等を検討している。



4 放課後子ども教室、放課後児童クラブの連携までの経緯

平成19年度より、「中島村放課後子どもプラン」の実施により、放課後児童クラブの管轄が保健福祉課から教育委員会生涯学習課に変わり、中島子ども教室と管轄の一本化が図られた。

放課後児童クラブの運営場所は、村内2つの小学校に空き教室がなく、小学校と放課後児童クラブの管理上の問題もあったため、村農村環境改善センターを利用して開所していた。

また、放課後子ども教室に関してもボランティアの確保が難しく2つの小学校での実施はできない状況もあり、放課後児童クラブとの一体化を考え土曜日のみ実施として、放課後児童クラブと連携しながら放課後児童クラブの施設や公民館を会場にして体験型活動や自由遊び等の活動を実施した。

平成27年度には「放課後子ども総合プラン」の実施により、一体型及び連携型が検討されたが、小学校の空き教室の確保が難しく、今後放課後児童クラブ専用施設建設の検討もあることから一体化ではなく連携型として実施することとした。

平成29年4月3日に中島村児童館「輝らキッズ」が開館し、教育委員会生涯学習課が管轄だった放課後児童クラブと放課後子ども教室は、児童館に移管され児童厚生員が中心となり運営することとなった。

活動場所は児童館とし、今まで同様連携型を基本に活動することとなる。

取り決め内容、その他

- 放課後子ども教室の担当者がプログラムの策定と活動を指揮し、放課後児童クラブのスタッフはその事業の補助をし、それぞれの役割を明確にして児童の活動を支える。
- 活動がスムーズに展開できるようにプログラムの展開にあたっては情報交換を行い、共通理解に立って児童の活動を支える。
- 活動時にけがや体調不良、トラブル等があった場合、放課後児童クラブ、放課後子ども教室どちらの児童であっても、活動に従事しているスタッフ全員で協力して対応する。

5 取組の成果と今後の課題

成果

①学習支援

学習会には放課後児童クラブと放課後子ども教室の1年生から6年生まで毎回約80名の児童が参加した。児童館という新しい施設でもあったので、学年ごとグループに分かれて対応できる恵まれた環境の中で学習支援が実施できた。

3年生以上は学習室で生涯学習指導員と児童館職員が対応し、1・2年生はクラブ室で児童館職員と放課後児童クラブのスタッフ、子ども教室のスタッフで対応した。

学習環境を整え約束事を決めて支援にあたったので、金曜日になると子ども達は「今日は学習支援の日」と気持ち切り替えて学習に取り組むことができた。

2年目には、毎週金曜日の学習会は子どもたちに定着し、スムーズに学習が行われている。3年生以上の児童には学習が早く終わった児童のために児童書を用意していることで、読書に興味を持つ児童も増えてきた。1・2年生にも今年度から学習の振り返りカードを作成し、学習会終了後各自に記入させている。そのため、低学年ではあるが、意識をもって学習に取り組む姿がより多くみられるようになった。

②自由活動

土曜日の自由活動日では、小学生が集団で自由に遊べる場所がなかなかない中、放課後児童クラブと放課後子ども教室の児童と一緒に仲良くのびのびと活動するこ

とができた。また、同学年だけではなく異学年や他校との交流も図れるため、児童にとっては良い環境の中で活動できた。

2年目は、子ども教室スタッフとして多くの高校生の協力を得たため、子どもたちはお兄さん、お姉さんと遊べるとあって来館を楽しみにしている。

③体験型プログラム

- コミュニタン福島・あぶくま洞への研修旅行では、小学生としての異年齢活動の良さが十分に活かされるよう異年齢によるグループ編成や活動を取り入れた。保護者ボランティアの参加があったことでスムーズにそれらの活動を支えることができた。
- アクアマリン移動水族館では、中島村は魚と触れ合う機会がなかなかない環境でもあるので、子ども達はとても喜び、寒い中何度もタッチプールに手を入れて水の中の生き物に触れる感触を楽しむことができた。
- 村内の各種団体に講師を依頼し、「よさこいダンス」「グラウンドゴルフ」「団子さし」等の活動を実施した。活動を通じて身近な人々同士の交流ができお互いに良い刺激となり、地域コミュニティの充実が図られた。
- 2年目には、アンケートを実施して担当の思いと児童や保護者の意見を反映したプログラムを作成し、事業を計画したことで参加者の増加につながった。

今後の課題

○おやつへの対応

子ども教室にはおやつがないため、児童クラブとの連携をする際にその対応が課題である。

○子ども教室の児童やスタッフの確保

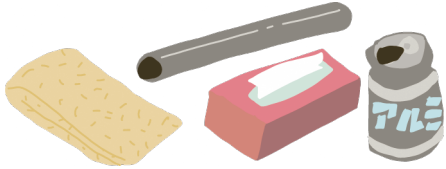
子ども教室の児童募集にあたっては、小学校の協力のもとで多くの参加者を得ることができた。また、子ども教室スタッフとして多くの協力を得るように村民や近隣高校への周知の工夫(チラシ等の配布)をしたことで、高校生スタッフを多数確保することができた。今後、教室、スタッフ共に継続して確保できるよう対応が必要である。



6 共通の活動のプログラム

(1)その1 教科学習関連

プログラム名	科学・工作教室 (静電気の実験・浮沈子の工作)	所要時間	2時間程度
プログラムのねらい	<ul style="list-style-type: none"> 身近な静電気を題材として扱うことで、自分たちは科学に触れていることを実感する。 工作「浮沈子作り」に挑戦し、その仕組みを学ぶことによって科学に対する興味・関心を高める。 放課後子ども教室及び放課後児童クラブの参加児童相互の交流を図る。 	準備する教材	静電気の実験： タオル・塩化ビニルパイプ・ティッシュ スズランテープ・アルミ缶・テープ・ラップ・ストロー 浮沈子の工作： 500mlペットボトル(なるべく炭酸飲料のものがよい)・しょうゆさし・ナット・油性マジック・コップ・水
プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> 静電気を発生させ体験することができる。 浮沈子の作り方を知り、完成することができる。 身近に科学が潜んでいることを知り、体験することができる。 	児童の持ち物	飲み物
対象者	30人	講師の依頼	児童館職員が担当。 支援については放課後児童クラブのスタッフ・放課後子ども教室担当で行う。
実施時期	平成29年11月4日(土)	活動を支援する方々の役割	<ul style="list-style-type: none"> 静電気の実験では、児童と一緒に活動する。その中で「もっと強くこすってみよう」などのアドバイスをかける。静電気が発生した時には、ほめる。 浮沈子の工作では、しょうゆさしへの色塗りは個人差があるため時間をみて次のステップへ移動するよう声をかける。しょうゆさしの中に水をいれるところが難しいため、支援が必要になる。

児童の活動内容	指導・助言者の支援内容
1 静電気についての話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> 講師の質問(静電気について)に対して、答える。 (EX.セーターを脱ぐときや下敷きで頭をこすった時など。) 講師による静電気の発生実験の際には、静かに参観する。 実際に実験を体験する。(2人程度) 	1 児童に静電気の体験談などを聞き、仕組みを簡単に説明し、その後静電気を実際に発生させてみる。 【発生方法】 <ol style="list-style-type: none"> アルミ缶にストローを接着させる。(持ち手の役割) Iのアルミ缶にラップを巻きつける。 巻きつけたラップをアルミ缶に手が触れないようにはがしていく。 ラップをはがしたアルミ缶に何もしていないアルミ缶を近づけると静電気が発生する。(小さな音でパチツとなる)
2 パイプを用いて静電気を起こす。 <ul style="list-style-type: none"> 講師の演示を見終わり次第、班ごとに静電気を起こす実験を行う。 	2 パイプとタオルを使って実験の見本を示し、実際に起きるとどうなるか見せる。 <ol style="list-style-type: none"> パイプをタオルでこする。 静電気が発生すると、パイプとタオルの間でパチパチと聞こえる。 ティッシュペーパーの一部を机にテープで張り付けておき、IIのパイプをティッシュペーパーの上にかざす。静電気が発生しているとティッシュペーパーが立ち上がる。 ※ティッシュペーパーを人型に切って貼っておくと、人が立ち上がっているように見えて面白い。
3 静電気を起こして遊ぶ。 【スズランテープ】 <ol style="list-style-type: none"> 長さ10cmぐらいの長さのスズランテープを真ん中で1回縛り、両端を中心まで細かく裂く。 パイプに静電気を起こす。 裂いたスズランテープをティッシュペーパーでこする。 IIIを空中に投げ、IIのパイプで落ちないように下にあてる。どちらも静電気に帯びていると反発し空中に浮く。 	3 スズランテープ・アルミ缶を用いた静電気の実験を行う。 <ul style="list-style-type: none"> スズランテープ・アルミ缶ともに講師が児童に実験を見せる。その後グループごとにそれぞれの実験を行う。 【スズランテープ】 <ul style="list-style-type: none"> 2枚に重なったスズランテープを1枚にするのが難しいため、初めからはがしたものをグループに配布。 細かく裂かなければ重くて、浮かないことが多いため、細かく裂くように指導。 パイプとスズランテープを同時に静電気を帯電させるのは児童にとって難しいため2人1組で実験させる。

児童の活動内容	指導・助言者の支援内容
⋮	⋮
<p>【アルミ缶で遊ぶ】</p> <p>I パイプに静電気を起こす。 II アルミ缶を横にしておく。 III Iのパイプをアルミ缶に近づけるとアルミ缶が転がる。</p>	<p>【アルミ缶】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パイプのみに静電気が起きてアルミ缶の静電気が弱い場合には、アルミ缶もこすると実験が成功しやすい。 ●アルミ缶をつぶさないよう指導する。
<p>4 浮沈子の導入。</p> <p>I 見本を見て、浮沈子のイメージを膨らませる。 II 講師の演示を見る。 III 作り方の手順を聞く。</p> <p>【浮沈子の作り方】</p> <p>I しょうゆさし(魚型とピン型の2種類)にそれぞれ油性マジックで色を付ける。 II コップに水をくみ、色を付けたしょうゆさしにナットを装着し、それに水を入れ、沈むか浮くかギリギリに調整して浮沈子の材料をつくる。(難しい) III IIの調整後、500mlペットボトルに、水を飲み口ギリギリまで入れ、IIをペットボトルの中に入れる。 IV ふたを閉め、IIがペットボトルを押すと沈み、離すと浮くように調整して浮沈子を完成させる。</p>	<p>4 休憩をはさみ、静電気から浮沈子制作に入るので、興味を引くように導入を工夫する。</p> <p>※大きなペットボトルで作った浮沈子の見本を用意し、「皆さんに魔法使いになってもらいます」などの言葉から導入を行う。手を温めるなどの動作を入れて興味を喚起する。演示後、浮沈子の原理を説明し、細かい作り方の手順を教える。</p>
	
<p>5 1人1つ浮沈子を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●材料のしょうゆさしに好きな色を付ける。油性マジックは限られているため、譲り合いながら製作を進める。 ●水をしょうゆさしの中に入れる際にコップの水がこぼれないよう注意する。 ●浮沈子を調整して完成させる。 	<p>5 浮沈子作りの支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水を入れ、ギリギリに調整する部分が最重要になってくるため、難しそうな場合には支援する。 ●色付けに夢中になる児童もいるため、開始から20分ぐらい経過した時点で全体に次のステップに移るよう声をかける。
<p>6 できた浮沈子で遊ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●魔法使いになれるよう練習しながらできた浮沈子で遊ぶ。 	<p>6 完成した浮沈子のいいところなどをほめる。</p>
<p>7 片づけ、感想発表</p>	<p>7 感想発表を聞き、仲間との意見交換を実施する。</p>

科学・工作
教室の様子



(2)その2 文化継承

プログラム名	絵手紙教室	所要時間	2時間程度
プログラムのねらい	<ul style="list-style-type: none"> ● 普段描くことのない絵手紙を体験し、完成した絵手紙の鑑賞会を設け、自分の表現意図などを発表できるようにする。 	準備する教材	絵手紙作成道具一式(講師に一任)、水(やかん)、新聞紙、バケツ、絵手紙用はがき、切手、ホワイトボード2枚、磁石
プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 身近なものを描き、絵手紙を完成させる。 ● 参加者相互の交流を図り、鑑賞会をする。 ● 描いた2枚のうち1枚を村民文化祭へ出展する。もう1枚は自宅へ持ち帰る。その後各家庭で宛先を記入しポストへ投函する。 	児童の持ち物	自分で描きたいもの2つ
対象者	22人	講師の依頼	村内在住の日本絵手紙協会公認講師
実施時期	平成29年9月2日(土)	活動を支援する方々の役割	講師を中心に絵手紙教室を進めていく。色々なものを持参するため、様々な絵手紙が完成する。上手な点をほめるなどして絵手紙の完成へ向けて支援していく。

児童の活動内容	指導・助言者の支援内容
<p>～事前準備～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あらかじめ描きたいものを自分で考えておき、当日2つ持参する。 	<p>～事前準備～</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講師に絵手紙作成道具一式の手配をお願いしているため、講師到着後参加児童が来る前に机の上に絵手紙が描けるよう道具を準備する。 ※水と新聞紙とバケツは児童館で準備。
<p>1 講師の説明を聞く。</p> <p>※話を聞く際に机に乗っている道具を勝手に触らない。説明を受けた際に触れてみる。</p>	<p>1 絵手紙を描く基礎について教える。</p> <p>① 絵手紙についての説明 ② 机上の道具の確認 ③ 筆の持ち方について</p>
<p>2 線を描く練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 配られた半紙に講師の説明の後、実際に書いてみる。 <p>【1枚目】 I 左から右 II 右から左 III 上から下 IV 下から上</p> <p>【2枚目】 ● 渦巻き ● 逆渦巻き</p>	<p>2 実際に線を描く前に半紙を2枚ずつ配る。児童が描いている線を見て回る。時間がある場合には自分でも挑戦してみる。</p>
<p>3 持参したものはがきに描く。(2枚)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1枚目を描き終えたら、名前を記入する判子を絵手紙に押す。その後磁石でホワイトボードに作品を貼り、2枚目のはがきをもらう。 ※2枚目を描く際に筆洗の水を交換する。 	<p>3 描く直前にはがきを1枚配る。ザラザラした面に描くよう説明する。講師を中心に、描いている児童の支援に回る。講師と一緒に筆を動かして支援する。1枚目を描き終え、ホワイトボードに作品を貼った後は、2枚目のはがきを配る。水の交換を行う際のバケツと水を用意しておく。</p>
<p>4 鑑賞会を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ホワイトボードに完成した絵手紙を磁石で貼る。2枚とも磁石で貼り終わった児童は全員が貼るまで待つ。講師に指名された児童は感想を発表する。 	<p>4 2枚貼り終えた時点で、講師は感想発表する児童を数人指名する。その感想を受けて、全員の作品を見ながら上手に描けたところや工夫していると感じた点を伝える。</p>
<p>5 村民文化祭に出展する作品は職員に預け、もう1枚は切手を貼り持ち帰る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各家庭で宛先を記入しポストへ投函する。 	<p>5 ポストへ投函することを説明し、預かったものが誰のかわからなくなならないよう名前などを貼り付ける。</p>
<p>6 片づけをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 筆をバケツの中でしっかり洗い、種類ごとに講師へ片づける。 	<p>6 筆を洗うよう指導し、種類ごとに返却できるよう促す。</p>



絵手紙教室の様子



(3)その3 スポーツ・交流(レクリエーション)

プログラム名	グラウンドゴルフ教室	対象者	14人
		実施時期	平成29年6月3日(土)
		所要時間	2時間程度
プログラムのねらい	<ul style="list-style-type: none"> グラウンドゴルフを通じて、ニュースポーツの楽しさを体験するとともに放課後子ども教室及び放課後児童クラブの参加児童相互の交流を図る。 	準備する教材	グラウンドゴルフ一式
		児童の持ち物	タオル・飲み物
		講師の依頼	グラウンドゴルフ協会の方
プログラムの目標	<ul style="list-style-type: none"> ニュースポーツを体験し、楽しさを知る。 参加者相互の交流を図り、仲良くなる。 	活動を支援する方々の役割	クラブの握り方など初めての児童ばかりなので、協会の方々を中心に活動の支援を行う。放課後児童支援員と安全管理員は児童のけがなどに注意し、児童のいいところをほめる。

児童の活動内容	指導・助言者の支援内容
1 はじめに <ul style="list-style-type: none"> 協会の方の話を聞き、プレーする心構えを作る。 ルールやグラウンドゴルフについて知る。 	1 会場準備 <ul style="list-style-type: none"> グラウンドゴルフができるようコース、クラブ、ボールなどを準備する。
2 個人練習 <ul style="list-style-type: none"> 指導のもと、個人で練習に取り組む。 	2 活動指導 <ul style="list-style-type: none"> ルールの説明 クラブの持ち方、打ち方の指導を行う。
3 みんなでプレー <ul style="list-style-type: none"> 一定時間練習後、全員でプレーに取り組む。 	3 全員でプレーする。 <ul style="list-style-type: none"> 一定時間練習した後に、児童と一緒にプレーする。まだなれていない児童には指導しながらプレーする。
4 振り返り <ul style="list-style-type: none"> 体験しての感想を発表する。 	4 振り返り <ul style="list-style-type: none"> 一緒にプレーしての感想を発表する。
5 終了 <ul style="list-style-type: none"> 体験活動のお礼をする。 	

グラウンドゴルフ教室の様子



2 学校の体育館での体験活動を中心とした活動の事例

場所の工夫 (棚倉町)

1 地域の現状

棚倉町高野地区は町の西部に位置し、中心市街から3キロほど離れているが、主要道路に面しており交通の便はよく、久慈川や八溝山に囲まれた自然豊かな地域である。

地域住民は、2世代3世代に渡って世帯構成している家庭が多いが、仕事のため日中留守となる家庭もあるため、放課後児童クラブを開所している。

高野小学校では、平成29年度に「主体性の育成」を重点項目として掲げ、同じ校舎内にある幼稚園と連携した指導に取り組んでいる。

2 放課後子ども教室、放課後児童クラブの状況

	放課後子ども教室 (高野子ども教室)	放課後児童クラブ (高野児童クラブ)
登録児童数	29人	15人
活動場所	幼稚園遊戯室、小学校体育館	幼稚園遊戯室
活動時間	平日 15:10~16:10 長期休業等 13:30~15:30	平日 授業終了後~18:00 (放課後子ども教室開催日は 15:10~18:00) 長期休業等 7:30~18:00 (放課後子ども教室開催日は 13:30~15:30)
開所頻度	平日 13日 長期休暇 1日 年間 約14日	平日 毎週月~金曜日 長期休暇 夏季・冬季休業・年度初め・年度末休業日開所 年間 約289日
主に従事している者	コーディネーター 1人 安全管理員 1人 活動指導員 2人	放課後児童支援員 2人
担当部署	子ども教育課	子ども教育課



3 共通活動の実施状況

(1) 活動状況

活動場所	高野小学校体育館、幼稚園遊戯室
活動時間	平日 15:10~16:10 長期休業等 13:30~15:30
活動頻度	平日月1日、長期休業等1日
主に従事している者	放課後児童支援員、コーディネーター、安全管理員、活動指導員
主な活動内容	キンボール、硬筆教室など

(2) 活動日の1日の流れ(児童)

平日

時刻	高野子ども教室	高野児童クラブ
	授業終了(放課後)	授業終了(放課後)
	共通の活動場所へ移動	
15:10	共通の活動開始	
16:10	活動終了、解散	児童クラブへ移動し、児童クラブ内での活動家族のお迎え
18:00		(閉所)

長期休業等

※オープンスクール(8:00~12:00)で児童が自主学習のため学校に来る日にちに合わせて共通の活動を実施。

時刻	高野子ども教室	高野児童クラブ
12:00	オープンスクール終了後、昼食をとって、共通の活動場所へ移動。	
13:30	共通の活動開始	
15:30	活動終了、解散	児童クラブへ移動し、児童クラブ内での活動家族のお迎え
18:00		(閉所)

活動時に留意していること(事務担当者の声)

- 活動中は参加する子どもたちが、講師や指導員の話をきちんと聞いて楽しんでいるか、けが人や体調不良者がいないか様子を見る。
- 講師や活動指導員ならびに学校関係者が互いに友好的に活動できるよう、それぞれの意見に配慮しながら進めている。

(3)活動の1年の流れ(児童) (平成29年度)

月	日付	活動場所	活動内容	講師 その他
6月	26日(月)	体育館	開級式、読み聞かせ	おはなし会キャロット
7月	3日(月)	幼稚園遊戯室	十七文字の詩を作ろう	地域ボランティア
	28日(金)	体育館	キンボール	キンボール協会
9月	1日(金)	体育館	フロッカー	老人クラブ連合会
	8日(金)	体育館	囲碁ボール	老人クラブ連合会
	15日(金)	体育館	野の花を生けよう	婦人会会員
10月	13日(金)	体育館	ディスクッター	スポーツ推進委員
	20日(金)	体育館	昔遊び	民生委員高野支部
	27日(金)	体育館	3B体操	3B体操協会
11月	20日(月)	体育館	キンボール	スポーツ推進委員
	27日(月)	幼稚園遊戯室	硬筆教室	退職校長会
12月	1日(金)	体育館	なわとび	
	8日(金)	幼稚園遊戯室	英語で遊ぼう	地域ボランティア
	15日(金)	幼稚園遊戯室	閉級式、読み聞かせ	語りの会

共通の活動回数

14回

(4)活動の1年の流れ(事務担当) (平成29年度)

4月27日(木) 学校訪問・打合せ

出席者 学校長、教頭、事務担当

- 内容
- 学校側へ共通の活動実施の意向を伝える。
 - 昨年度の年間スケジュールを示し、取り組んでほしい内容があるか聞き取る。
 - 実施場所の確保のため、教室の空き状況、予定確認表を提供してもらう。

5月15日(月) スタッフ会議

出席者 事務担当、放課後子ども教室スタッフ、放課後児童支援員

- 内容
- 事務担当より今年度の開催期間と学校のプログラムの要望を伝達する。
 - 今年度の実施回数とプログラムの案を作成。

6月5日(月) 放課後子どもプラン運営委員会

出席者 事務担当、各学校長、PTA会長、放課後子ども教室コーディネーター、放課後児童支援員

- 内容
- 昨年度の共通の活動実績の報告を行う。
 - 今年度の活動予定を発表する。

1年を通じて留意していること(事務担当の声)

- 活動プログラムでは、地域ボランティアなど地域住民を積極的に活用する機会を設けた。
- 共通の活動で、子どもたちにどのような体験をしてほしいのか、学校関係者の声をもとに、フロッカー、ディスクッター、囲碁ボールといったニュースポーツを開催した。また、スタッフも一緒になって楽しめる内容なのかを考慮した。

4 放課後子ども教室、放課後児童クラブの連携までの経緯

高野小学校では、平成19年度から始まった『放課後子どもプラン』の趣旨に基づき放課後子ども教室を開始するにあたり、小学校に余裕教室がなく、放課後子ども教室と放課後児童クラブを分けた形態を採用出来ない現状があったため、両方を連携して活動を始めることとなった。

また、棚倉町ではキャリア教育を推進しており、町内の小中学校において、学力向上はもちろん『人間関係形成・社会形成能力の育成』を重要視しており、高野小学校においても学校活動と放課後活動の両輪で取り組んでいる。

学校活動では『尊敬と助け合い』をキーワードに学校併設の幼稚園との幼小連携はもとより、学校内での異学年交流を活発に行っており、子どもたちは分断することなく活動できている。この学校経営の特性が放課後活動にも存分に活かされている。

放課後活動では、部屋不足という現状の発想を転換し、『どちらも同じ小学校の児童であり、体験活動を実施するのに子ども教室も児童クラブも差異はない』という学校、保護者、放課後子ども教室、放課後児童クラブの考えが一致し、団結して活動することができている。

こうした学校経営と地域の特性を活かして放課後活動に取り組んでいる。

5 取組の成果と今後の課題

毎回、共通の活動終了後に参加した子どもたちに感想を発表してもらっているが、「楽しかった」、「またチャレンジしたい」など非常に前向きであり、和やかな雰囲気できている。

夏休みに実施したキンボールでは、チーム対抗戦を行い、リーダー役の児童が作戦を立て、率先して他のメンバーに声を出して指示し、チーム一丸となり楽しんでプレーをしていた。

これは学校で教育目標にしている「主体性の育成」に合致した姿であり、放課後活動においても如何なく発揮されている。

年度終了後、活動スタッフに集まってもらい、自分たちで自主的な反省と次年度への展望をまとめることでモチベーションを高めてもらうこととした。

課題としては、スタッフの確保が挙げられる。活動の担い手となる人材不足が慢性的に続いており、容易には見つからない。平成29年度は、参加児童募集と併せてスタッフ募集も実施し、保護者が指導員として新たに加わった。今後も、保護者世代がスタッフとして継続的かつ気軽に参加できるようなスケジュール構成に留意するとともに、スタッフの世代交代が円滑に進むようにコミュニケーションを図る必要がある。

6 共通活動のプログラム

(1)その1 スポーツ・交流(レクリエーション)

プログラム名	キンボール体験教室	所要時間	2時間程度(慣らし体験50分、ゲーム形式50分、休憩20分)
プログラムのねらい	児童クラブと子ども教室の相互参加と協働によってキンボールと呼ばれるニュースポーツの存在を知ってもらう。	準備する教材	なし(講師が教材の一式を準備する。)
プログラムの目標	参加者全員が競技公式球に触れて感触を確かめ、ルールを学びながらチームに分かれて試合に参加し、楽しんでもらう。	児童の持ち物	上履き、汗拭き用タオル、水筒等
対象者	小学校全学年(約30人)	講師の依頼	キンボール専門講師(福島県キンボール連盟)
実施時期	平成29年7月28日(金)	活動を支援する方々の役割	<ul style="list-style-type: none"> けがや体調不良になった参加者はいないかを見守る。 子ども同士の喧嘩や飽きによって輪を乱す子がいなかったかをチェックする。 指導講師に対し、前後の挨拶、感謝の意を述べるができるかをチェックする。

児童の活動内容	指導・助言者の支援内容
1 公式球に触れて、特性を知ろう。 <ul style="list-style-type: none"> 全員でボールをトスしたり、転がしたりして感触や大きさを体感する。 	1 キンボールの公式球を準備する。 <ul style="list-style-type: none"> 空気を入れて膨らませながら球の大きさを確認してもらう。 空気を入れ終わったら、子どもたちに手渡してなるべく長い時間トスしてもらい床に落とさないようにする。 トスが終わったら、今度は床で転がしてみる。
2 参加団体、学年の区別なくチームを編成してゲームに参加しよう。 <ul style="list-style-type: none"> ピンク、黒、グレーの3チーム及び前半組・後半組に分かれてゲームをし、総得点数を競い合う。 	2 キンボールのルールを理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 形式や時間、禁止事項を説明し、ゲームに臨む心構えをつくる。 1ゲーム5分間で得点を競い合う。 ゲーム感覚が身に付き、慣れてきたら、自分のチームが優位に立つための作戦を考える。
3 振り返り <ul style="list-style-type: none"> プレー後の感想を言い合おう。 	3 結果発表 <ul style="list-style-type: none"> 総得点数及び順位発表。
4 終了 <ul style="list-style-type: none"> 最後にお礼のあいさつをしよう。 	

キンボール体験教室の様子



(2)その2 教科学習関連

プログラム名	硬筆学習教室	対象者	小学校全学年(29人)
プログラムのねらい	書き順等の所作や机に向かう姿勢などを1人1人が理解し、その場限り一時的で終わることなく、継続性、持続性を伴わせる。そして、文字を書く楽しさに気付いてもらう。	実施時期	平成29年11月27日(月)
プログラムの目標	平仮名や漢字の書き順を確認し、覚えることと、机に向かう姿勢を正すことによって、文字を正しく書く習慣を身に付けてもらう。	所要時間	1時間程度(なぞり書き及び清書50分 講評10分)
		準備する教材	書きかた練習プリント
		児童の持ち物	鉛筆、消しゴム等
		講師の依頼	福島県退職校長会東白川支部

児童の活動内容	指導・助言者の支援内容
<p>1 所作に気をつけながら、練習用プリントのマス目の中に、漢字をなぞり書きしてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字を書くコツが分かるまで、何回も何枚も練習する。 書きながら、自分が疑問に思ったことを先生に質問してみる。 	<p>1 文字を正しく、美しく書くコツを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉛筆の止め、ハネ、はらいに留意する。 机に向かう時の姿勢、背筋を伸ばす。
<p>2 コツが分かったら清書してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 書き順、所作に気をつけて、正しく、きれいに書いてみる。 	<p>2 実際に書いてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習プリントをなぞり書きした漢字を清書してみる。
<p>3 書いた文字を先生に見てもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が書いた字のチェックを受け、良かったところ、悪かったところを認識する。 	<p>3 書いた文字をチェックする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人1人に向き合い話を聞きながら赤ペンでチェックする。 正しくかけた漢字、きれいに書いた漢字は、花丸を付けて褒める。
<p>4 時間の余裕や意欲が湧いたら、まだ習っていない漢字を書取りしてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他学年のプリントを見てなぞり書き。 	<p>4 漢字を書く楽しさが分かったら、まだ習っていない漢字、書いたことがない漢字にチャレンジしてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年で習う漢字の数がどのくらいあるか知ってもらう。
<p>5 振り返り ●感想発表</p>	<p>5 講評 ●練習時間、清書時間中の感想</p>
<p>6 終了 ●最後にお礼のあいさつをしよう。</p>	

硬筆教室の様子



3 週末に小学校の体育館等で体験活動を中心に実施している事例

場所の工夫 (国見町)

取組の概要や経緯

国見町の放課後子ども教室事業は平成16年度より開始され、週末や長期休業期間に小学校の体育館や公民館(国見町観月台文化センター)を活用し、子どもたちの安全・安心な活動拠点(居場所)を設けている。地域の方々の参画を得て、子どもたちの勉強やスポーツ・文化活動等の取組を実施している。

内容

- 対象者：国見小学校1年生～3年生の参加希望者
- 活動場所：国見小学校体育館、国見町観月台文化センターほか
- 実施期間：回数：5月～2月、計11回
- 活動内容：キンボールなどの運動や創作活動、ピザ作りなど様々な体験活動を実施している。
- 募集：毎年4月に小学校を通じて募集チラシを配布し、事前申し込みにより参加児童を登録する。

ポイント

- 子ども教室のスタッフが、児童クラブのスタッフを兼ねている。
- 子ども教室のスタッフが、児童クラブの児童を迎えに行っている。
- 子ども教室のコーディネーターが児童クラブに出向き、定期的に打合せを行っている。
- 長期休業期間以外は、土曜日に活動を実施している。
- 夏休みの長期休業期間を利用し、野外体験活動や施設見学を実施。(今年度は、ムシテックワールドとヤクルト福島工場を利用)
- 指導員のほか、地域の大人や世代間での交流活動も積極的に取り入れている。



成果

- 同学年だけでなく、学年の異なる子どもの交流がみられた。上級生の子どもが、下級生の子どもの面倒をよくみていた。
- 地域の大人や世代間でのふれあいがあったことで、人とのつながりを実感できた。
- 普段小学校では経験できないような体験をしたことで、子どもたちは楽しい思い出を作ることができた。



今後の方向性

- 今後も子どもたちが十分に楽しめるよう、スタッフ同士の連携を綿密にし、安心・安全な活動を心がけていく。
- 地域の大人との交流や世代間交流を積極的に取り入れ、地域とのつながりを作っていく。
- 放課後児童クラブ(子どもクラブ)との連携をより一層進めていき、児童クラブからの参加児童の参画をスムーズにする。



4 大学生を活動指導員に委嘱し、体を動かす活動を中心に実施している事例 人材確保の工夫 (川俣町)

取組の概要や経緯

川俣町放課後子ども教室(たのしい教室)では、地域のお年寄りと、木工教室や伝統行事などを実施し世代を超えた交流をしてきた。また、原発事故以降、肥満傾向にある児童の肥満解消を目指した活動に力を入れ、教員志望の福島大学生による継続した運動支援や学習支援、栄養教諭による食育教室を行ってきた。加えて、平成30年度に新たに開催した防災教室には児童クラブの児童も参加した。

内容

- たのしい教室は、町内の6会場で参加登録小学生の1～6年生を対象に実施している。
- 火曜日～金曜日の週4日開催し、地域の年配の活動指導員やボランティアが、木工教室や将棋などを教え、季節の行事として七夕飾り、団子さし等伝統の行事を行い、お年寄りと世代を超えた交流を行っている。
- 肥満解消を目的に実施する活動には、運動指導ができる指導員の確保が必要であることから、教員志望の福島大学生を活動指導員に委嘱し、月3～4回程度、思いっきり体を動かし、運動に対して興味を持たせる活動を行うことで、児童の体力向上・肥満解消につなげている。

ポイント

- 週4日開催しているため、特別なイベントの割合は少ないが、日々の活動の流れができており、きちんと宿題を済ませてから運動などの活動に移る等、世代間交流ができる放課後の安全な居場所としてよく機能している。
- 大学生に活動指導員を委嘱し、スポーツを児童と一緒に行うことで、児童自身が体を動かすことの楽しさを実感している。



成果

- 大学生が運動指導、生活習慣の聞き取り、月1回程度の体重測定によるBMI値測定を実施している。また、食育教室により日頃の食べ物について関心を持つよう児童に仕掛けることで、総合的な肥満解消へ少しずつ成果が出てきている。児童によっては運動指導により体重が減少している児童もいる。
- スタッフとして参加している地域のお年寄りも、児童との交流や大学生との活動に生きがいを感じており、相互に良好な関係が築けている。

今後の方向性

- 肥満解消は児童の現在だけの問題ではなく、将来にわたって関係していく問題であるため継続して実施したい。
- 魅力ある活動をするためには、大学生等の活動指導員の確保が重要。大学生の確保のためには、大学生にとっても魅力ある学びの場(児童とより多く関われる場)の提供が必要と考える。
- 地域のスタッフの高齢化が顕著であり、将来的には事業の継続に支障が出てくる恐れがあるため、新たなスタッフの確保方法を検討していきたい。
- 今後、子ども教室と児童クラブが連携した事業を増やしていきたい。

5 児童生活センターが児童クラブと子ども教室を所管し、 町内の全小学校区で子ども教室をほぼ毎日開設している事例

自治体の理解 (三春町)

取組の概要や経緯

平成19年度から町内全6小学校区で放課後子ども教室の「まほろっこ教室」を開設している。

三春小、岩江小の子ども教室は、開催当時から児童クラブと連携しており、御木沢小の子ども教室は、平成24年度から連携している。

○年間行事：夏休み教室、七夕、クリスマス、節分等

○主な活動：子ども達の自由遊び、スライム作り等のほか、五目並べ、カード遊び、紙ひこうき、ボール遊び等

○学習活動：宿題、自由学習

【開設時間】通常、放課後から午後4時頃まで(地域の実情に合わせて実施)



夏休み教室(工作教室)



夏休み教室(調理実習)



指導員等研修会

内容

項目	三春教室	岩江教室	御木沢教室	中妻教室	中郷教室	沢石教室
実施場所	三春小学校 空き教室	岩江小学校 体育館	御木沢小学校 音楽室	中妻地区 公民館	中郷地区 交流館	沢石小学校 体育館 沢石会館(冬期)
開設日	月～金	月～金	月～木	月～金	月～金	月～金
開設時間	放課後～16時	放課後～16時	放課後～16時	放課後～16時10分 延長教室18時まで	放課後～15時45分 延長教室18時まで	放課後～15時35分 延長教室18時まで
参加児童数	16名	47名	18名	40名	79名	42名
開設予定日数	140日 (通常のみ)	140日 (通常のみ)	110日 (通常のみ)	160日(通常) 170日(延長) 29日(長期)	140日(通常) 170日(延長) 29日(長期)	160日(通常) 170日(延長) 29日(長期)

○指導員 44名登録 コーディネーター 2名登録

ポイント

児童クラブのない地区で、延長教室・長期休業中教室を実施

延長教室：

通常教室終了後から午後6時まで

長期休業中教室：

午前8時30分から午後6時まで

成果

○コーディネーターを中心に指導員等が積極的に事業に取り組んでおり、地域の実情に合わせて開設場所を変更しながら実施している。さらに地域間交流を行い効果的な事業が実施できた。

○避難訓練 …………… 参加児童数 104名

○夏休み教室 …………… 参加児童数 86名(調理実習や工作教室)

○指導員等研修会(AED講習会) …… 16名参加

○県中地区研修会 …………… 2名参加

今後の方向性

課題

●児童生活センターで児童クラブと放課後子ども教室を所管している。これらを一体的に取り組むにあたって施設整備の必要性和放課後児童支援員の資格取得及びボランティアの確保が課題である。

今後の取組

●それぞれの事業のあり方を検討しながら効果的な事業運営を推進していく。

6 児童の活動内容を発表する場を設け、 児童が能動的に活動に参加している事例

活動内容の工夫 (会津若松市)

取組の概要や経緯

会津若松市では市内9か所で放課後子ども教室を開催し、放課後児童クラブとの一体型として5教室実施している。

平成30年度開設の子ども教室「湊っこ1455」には、児童クラブの子どもが全員参加しており、また、河東学園小の子どもクラブでも、児童クラブの多くの子どもが参加を希望し、共に活動している。

各教室で独自性のあるプログラムを実施しており、子どもたちが受動的でなく、能動的に動けるような活動を行っている。

内容

- 各教室で様々な創作活動などを取り入れている。例えばパステルアートや地域の廃材を使った木工クラフト活動、放課後子ども教室の旗づくり、手作りかるたといった活動を行っている。
- その他にも、英語を使って自分を表現することや、子ども教室で学んだことを地区の文化祭などで発表する場を設けたり、製作したものを展示したりするなど子どもたちが表現したものを生かせるようにしている。

ポイント

子どもたちが学んだことを表現できる場を設けることで子どもたちが能動的に活動に参加する。また、地域の方の前で発表する機会を得ることで放課後子ども教室を地域の方に認識してもらい、参画を促すことができる。

成果

発表の機会を設けることで地域での理解が深まるだけでなく、家庭での話題提供につながり、発表を見た方から地域の子どもたちへ情報が伝わり、途中からの参加希望者が見受けられた。

地域の方々自身の活動に子どもたちが加わることで世代間交流が生まれることはもちろん、子どもと地域の方とのつながりができ、子ども教室外での継続的な交流が生まれている。

今後の方向性

- 児童数が減少していく中ではあるが、地域の方とつながりを持てる放課後の居場所として、今後も各小学校区に整備を進める。
- 今後も参加児童が活動を発表する場を設けていくことで放課後子ども教室の周知につなげる。
- 放課後子ども教室の活動に多様性が生まれるよう、地域の方々の人材発掘を積極的に行っていく。



7 児童クラブと子ども教室のスタッフが定期的に話し合い、 児童の状況を情報交換している事例

情報共有 (南相馬市)

取組の概要や経緯

南相馬市小高区においては、震災前から子ども教室と児童クラブを一体型として取り組んでいたが、震災後に一時中断していた。避難指示が解除された後も、家族の分散や地域コミュニティの崩壊が続いている状況にあることから、平成29年からの学校再開を機に、再び、子ども教室と児童クラブの連携をはじめた。地域の方々の参加のもと、小学校の余裕教室等を活用して、勉強や文化活動、地域住民との交流活動等のプログラムを実施することにより、子どもの心豊かで健全な育成と居場所づくりを推進している。

内容

- コーディネーターが中心となり、プログラムの企画・連絡調整を行い、地域や学校の実情に応じながら特色ある活動を充実させている。
- プログラムの内容としては、パソコン教室やチャレンジスポーツ教室、ペーパークラフト教室などを実施しているほか、地元ボランティアが運営する菜園で地域住民と一緒にキャベツの栽培を行うなど、地域との交流を図っている。

ポイント

- 1人1人の児童の状況を把握し、きめ細かに対応するため、小高合同児童クラブと放課後子ども教室のスタッフが定期的に情報交換を行い、密接に連携している。

成果

- 子どもの安全で安心な居場所の確保とともに、異学年や地域の大人との交流を通じて、地域社会の中で健やかに育まれる環境づくりに取り組むことができた。保護者及び児童へのアンケートでは、現状には満足しているとの意見が大多数を占め、加えて「何かを作ることをもっと学びたい(4年女子)」「地域の人との関わりを広げたい(5年男子)」といった意見もあった。本事業が目標の一つとする「遊びや交流への関心の高まりを示す児童の増加」についても、ある程度の成果がみられた。
- 一方、登録児童数の増加に伴うスタッフ不足の懸念もあり、今後の対策が必要となっている。

今後の方向性

- 年度当初は34人の登録児童数でスタートし、緩やかに増加しているが、更なる周知に努めるとともに、今回のアンケート調査結果を踏まえながら、教室の魅力向上を目指していく。



福島県こども未来局子育て支援課

福島県教育庁社会教育課